

世界幸福度調査の紹介 (World Happiness Report)

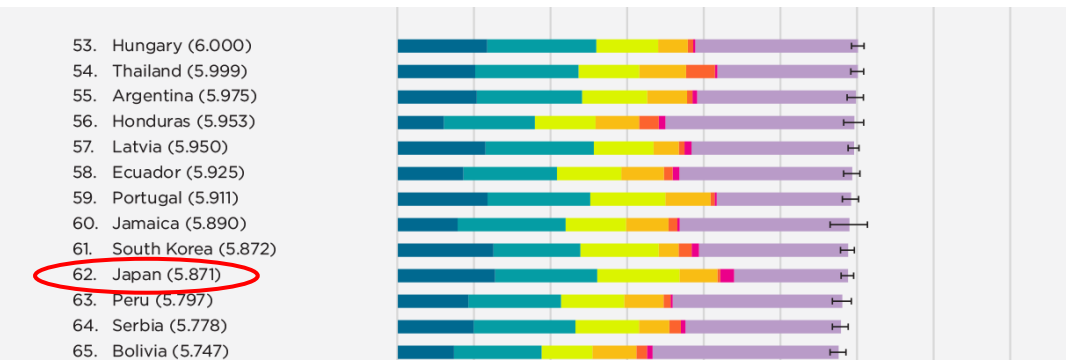
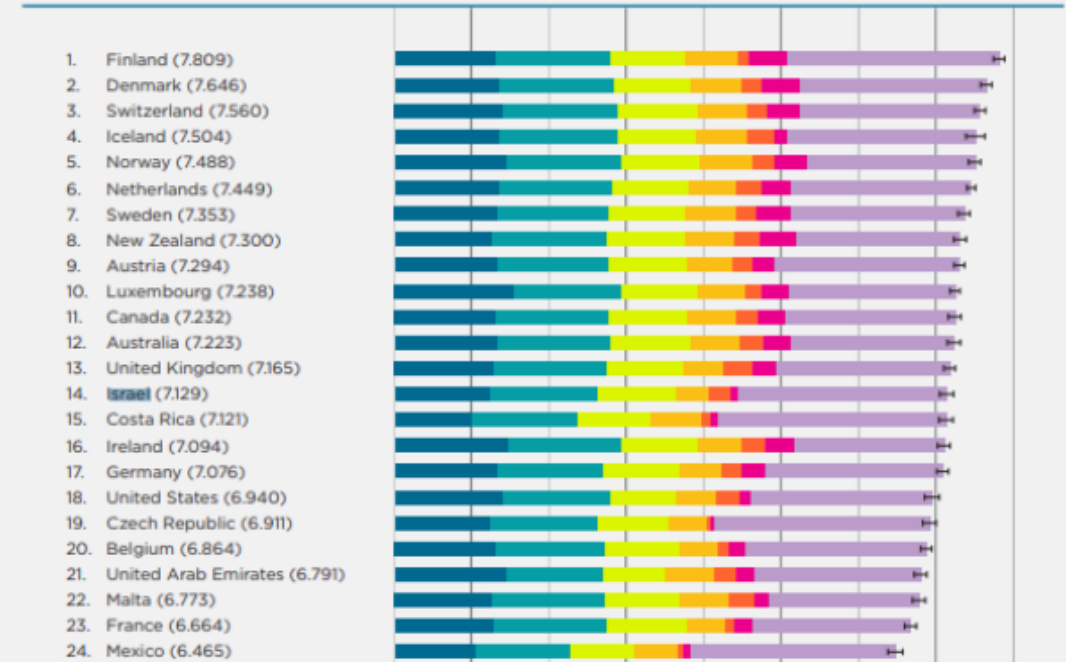
1. 世界幸福度調査とは

- 国連機関 (SDSN) が発行する世界各国の幸福度に関する報告。150以上の国・地域について、それぞれの幸福度を数値化したランキングを発表している。2012年から毎年 (2014年を除く) 発行。

2 ランキング

- ランキング最上位をフィンランド、デンマーク、ノルウェーなどの北欧諸国が占め、ヨーロッパ諸国が上位に連なる。(右上図)
- アジア・アフリカ諸国の順位は低く、紛争国や最貧国が下位に並ぶ。主要国の順位 (2020年) は、アメリカが18位、イギリスは13位、ドイツ17位、ロシア73位、中国は94位。
- 日本は公表当初 (2012年) は40位台だったが、徐々に順位を落とし2020年は62位であった。(右下図)

Figure 2.1: Ranking of Happiness 2017-2019 (Part 1)



ギャップ社が150を超える国・地域のそれぞれ数千人を対象に、考える最高のレベルを10、最低を0とする11段階のどのレベルにあると思うかを回答者に尋ねる世論調査を実施、数値化し、過去3年 (2020年は2017~2019年) の平均値をランキング化している。

「1人当り国内総生産 (GDP)」/「健康寿命」/「社会的支援」/「人生の選択自由度」/「他者への寛容さ」/「国への信頼度 (腐敗を感じる程度)」の6要素との相関も評価している。

開発ソリューションネットワークSDSN (Development Solution Network) World Happiness Report 2020より 産業推進保険機構の資料より抜粋



3 なぜ日本のランクは低いのか？

- レガタム 繁栄指数で日本は167か国中19位と上位ではあるが、諸外国に比べてもう一つ特筆すべき特徴がこの指数の下位尺度にあります。それはこの繁栄指数を構成する「社会関係資本」Social Capitalと呼ばれる尺度(家族との関係、社会的ネットワーク、対人的な信頼感、組織への信頼感、社会参加という5要素から算出)にあります。
- 社会関係資本はソーシャルキャピタルとも呼ばれ、「家族以外のネットワーク(社会的なつながり)」を意味し、具体的には、ボランティアや地域活動への参加、地域社会での「人との信頼関係や結びつき」を示す概念です。社会関係資本の評価は国内外の研究目的のみならず、実務的に世界銀行 World Bankが経済支援を行う地域に対して行っていますし、わが国の調査でも社会参加や連帯感、互助が豊かな地域に暮らしている高齢者は健康度が高いというエビデンスがでています。
- 他の下位尺度である健康度(167か国中2位)や教育(167か国中7位)が世界的に見てもトップクラスであるにもかかわらず、この社会関係資本の劣悪さが足を引っ張って総合順位19位に甘んじているというのが現状です。

社会資本と世界幸福度との関係を論じたものは数多くありますが、今回は産業推進保険機構の資料より抜粋しました。

レガタム 繁栄指数: 経済的質、ビジネス環境、統治、個人の自由、社会資本、治安と安全、教育、健康、自然環境の9つのサブカテゴリー、100以上のさまざまな指標に基づき、世界で最も「繁栄している」国をランク付けするもの
Legatum Instituteはロンドンに所在するシンク・タンク

繁栄指数 ランク		治安と安全	個人の自由	統治	社会関係資本
2020 rank	Country				
1	Denmark	10	2	3	1
2	Norway	2	1	2	2
3	Switzerland	1	12	7	9
4	Sweden	14	3	6	7
5	Finland	16	4	1	3
6	Netherlands	13	5	4	8
7	New Zealand	25	10	5	5
8	Germany	22	11	9	15
9	Luxembourg	3	6	8	28
10	Austria	4	14	15	10
11	Iceland	5	9	12	4
12	Ireland	12	8	14	16
13	United Kingdom	21	19	13	12
14	Canada	20	7	11	11
15	Singapore	9	92	25	18
16	Australia	18	16	10	19
17	Hong Kong*	6	46	19	72
18	United States	66	22	22	17
19	Japan	7	31	18	140